

保育闘争委員会ニュース

公的保育を守り拡充させよう

2024年
12月2日
第187号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会

Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957

honbu@tokyo-jichiroren.org

東京の自治体保育労働者運動実行委員会から集会のニュースをいただきました。転載します。

自治体に働く保育労働者の東京集会(秋の集会)を開催！

(14区・5市・公共一般合わせ192名の参加)

東京の保育労働者が産別を越えて運動を交流している自治体に働く保育労働者の東京集会(秋の集会)が10月27日(日)に開催され、たくさんの参加がありました。衆議院議員選挙が同日に重なったこともあり、開会挨拶の中ではより良い保育を充実するためにも、選挙に行き、私たちが子どもの声を届けるために活動する大切さが語られました。

『子どもの発達保障の観点から見た



子どもの権利を守る社会の形』

講演には龍谷大学名誉教授の白石正久氏をお招きし、『子どもの発達保障の観点から見た子どもの権利を守る社会の形』というタイトルでお話をいただきました。「子ども誰でも通園制度」について紐解いていくと、「子どもにとってひどいことになる!？」という制度内容が見え隠れしています。それゆえ、子どもの素敵さ、すばらしさをわかっていないと子どもを守っていく事が出来ないという事を強く訴えられました。



著書からの抜粋や、保育の中の子どもたちの写真を通して成長発達を語る中では、現場で働く私たちも想像しやすい場面が多くあり、子どもの発達を踏まえた話の後には「願い」がすべての原動力となることが語られました。子どもの願いに、手を差し伸べ、つなぐことで繋がり、解決を見出していくことが出来るということ。これこそ運動においても通ずるものがあると痛感しました。



講演の中では、子ども未来戦略や誰でも通園制度についてもわかりやすく問題提起をして下さり、営利主義が主体となってしまっている国と自治体の在り方を問うていくべきであるとまとめられました。

~参加者の声~

「話を聞いてくれることが愛情につながる」という話が印象に残り、子どもとの対話を大切にしていきたいと感じた。「誰でも通園制度」の問題点を学ぶことができ、誰のために行うのか疑問が残った。

子どもの発達の話の後に子ども誰でも通園制度のお話が聞けたことで、発達を保障を考えながら制度の課題を知ることが出来て良かったです。

「子ども誰でも通園制度」はその日、月数日の登園になるのが改めて難しいなと思いました。大切な時期であるからこそ丁寧に保育していきたい気持ちと反すると強く思います。現場の意見を強く伝えていきたいと思いました。